

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700069
法人名	榊新風会
事業所名	グループホーム嶺南
所在地	大洲市肱川町山鳥坂241番地1
自己評価作成日	平成 23 年 9 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

肱川の清流、桜や石楠花の花々に囲まれた、自然環境に恵まれた施設です。利用者が、ゆつくりと穏やかに生活を営むことができるよう、職員一人ひとりが、それぞれに目標を掲げて日々の業務に取り組んでいます。利用者の方々は、いつも明るく笑顔が絶えません。4月にスタートしたばかりで、まだ不十分なところもありますが、今後も地域の方々との交流を深めながら、より良いグループホーム作りを目指したいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は自然豊かで、四季折々の風景を楽しむことができます。玄関は自由に出入りすることができるよう常に開けられており、気軽に近隣住民は立ち寄ることができる。職員は、利用者の笑顔がふれるよう日々のケアに努めている。月に1回開催される勉強会や、外部の研修に参加する等、積極的にケアについて学んでいる。地域との関わりを大切に築いていきたいと考えており、お祭り等の行事にも積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

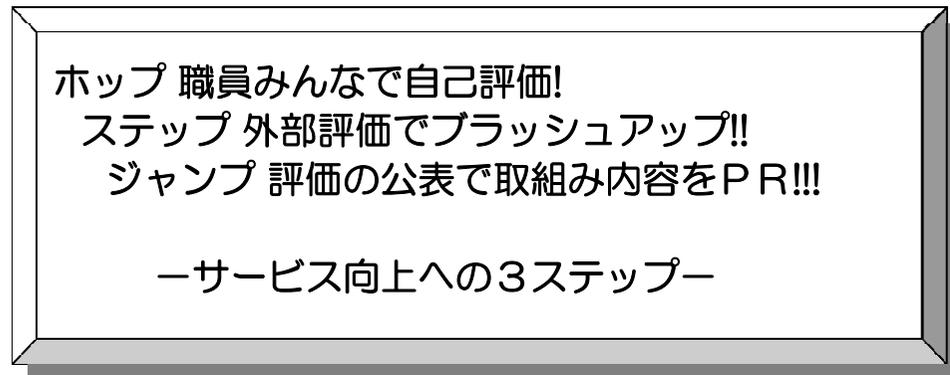
※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。



事業所名	グループホーム嶺南
(ユニット名)	南棟
記入者(管理者)	
氏名	継野 弘子
評価完了日	23年 9月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 各フロア毎のリビングにフロア毎の理念を掲げ、職員で共有し、日々の介護に活かせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 理念は利用者本位のケアを目指す内容の「やさしく・ゆっくり・おだやかに」と職員の基本対応について意識した内容の「ただしく・たしかに・すみやかに」が掲げられている。理念は見えやすい場所に掲示している。</p>	今年度開設された事業所であるため、理念を全職員で共有し、具体的に利用者本位のケアが実践されるよう、今後の取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くにあまり民家は多くないが、通勤時や散歩時等に、挨拶を心掛けている。 オープン時には近所の方が見学にもみえられた。</p> <p>(外部評価) 日常的に地域住民とあいさつを交わし、地域住民も気軽に事業所を訪ねてもらえるような関係づくりを行っている。地域初の事業所としてつながりを大切に築いていきたいという思いがあり、お祭り等の行事にも積極的に参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 肱川在住の高校生が、将来介護職に就きたいという希望があり、学校を通じ職場体験に来ていただいた。また、肱川中学校の職場体験も希望者がいれば受け入れる話はしている。が、開設したばかりなので、地域貢献はまだできていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎月の行事報告、入居者様の日頃の様子、フロア内での取組み等、話し合いを行なっている。 構成員の方々からも、地域行事の情報、また防災時についての積極的な意見もいただいている。	
			(外部評価) 2か月に1回、利用者や家族、民生委員、公民館長、地域の小・中学校の先生、市の担当者、他事業所の職員等の参加を得て開催している。日々の取組みを報告したり、地域からは消防訓練の協力の申し出もある。相談したり意見を交換できる場として有意義に活用されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者の方にも運営推進会議に参加していただき、意見交換をし、必要に応じて報告、相談をしている。	
			(外部評価) 市の担当者とは、日常的に報告や相談等の連絡を取り合いアドバイスを得る等、良好な協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関の施錠はしない。また、身体拘束も行っていない。近々、身体拘束について全員が理解を深めるために、勉強会を行なう予定である。	
			(外部評価) 月に1回開催される勉強会で取り上げたり、外部の研修に参加する等、積極的に拘束をしないケアについて学んでいる。また職員同志で、気になることがあれば注意し合い、よりよいケアの向上に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や、各自で研修等で学び、職員同士日頃から気をつけている。 利用者様への声かけも気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の対象となる方がおられるが、本人の同意が得られないため、保留になっている。 月1回、市職員を交えて話し合いを行なっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が書面をもって、わかりやすく丁寧に説明をして理解、同意を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。契約時には、苦情相談先を説明している。家族面会時には、日頃の様子、要望等を聞くようにしている。	
			(外部評価) 面会の時に話を家族から聞いたり、日頃の様子を電話連絡する機会を設け、積極的に意見や要望を聞き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスを行ない、意見や提案を話し合う機会を設けている。 毎月副部長の訪問があり、意見等を聞いていただき、助言等もいただいている。 (外部評価) 職員は、他の職員や管理者に気軽に意見や希望を言うことができる等、良好な関係が構築されている。出された意見は実現に向けて取り組むようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資格者手当があり、資格取得の向上心を持てるように取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修等に参加している。研修内容を業務カンファレンス時に報告してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に加入し、研修会への参加、他グループホームの運営推進会議への参加等している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望や不安等、利用者様の話を傾聴し、安心して過ごせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査、契約時に家族の要望や不安を聞き、プラン作成時に反映させる等、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査を行ない、本人、家族や、担当のケアマネージャーさんと話し、「その時」必要としている支援を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の生活歴を活かして、一緒に、調理・掃除等できることを手伝ってもらい、暮らしを共にする関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、近況を伝えている。毎月手紙等で日頃の様子等も伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得て、お墓参りに行かれたりしている。近所の方にも面会に来ていただいたりしている。 (外部評価) 馴染みの美容院を利用したり、お墓参りをする等、今まで大切にしてきた人や場所との関係を継続することができるよう、利用者一人ひとりの生活習慣等を把握し家族の協力を得ながら支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格・相性を考慮し、テーブル席を決めている。スタッフが間に入り、会話ができるよう取り持っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も、必要に応じ情報を提供している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の関わりの中で、一人ひとりの思いを汲み取るように努めている。毎月のカンファレンスで、スタッフで一人ひとりに対する意見を出し合い、プランに導入している。	
			(外部評価) 日常の会話等から思いや意向を把握するよう努めている。また、意思表示が困難な利用者については、表情等の変化や小さなサインを見逃さないよう心がけている。毎月のカンファレンスで職員間で情報を共有し意見交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の情報提供書や、家族・本人からの話を聞き、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、言葉や言動を観察し、変化や気付きを見落とさないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者や家族の思いや意向を聞き、毎月のケアカンファレンスで話し合い意見交換をして、介護計画を作成し、ケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者や家族から意見や要望を聞き取り、介護計画に反映するようにしている。また、介護記録の様式を工夫し、常に介護計画の目標やサービスの内容を意識付けることができるようにしている。また、モニタリングも定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録・経過観察・介護日誌に記入し、スタッフ全員が確認している。また、朝夕の申し送りも行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の希望により、療養マッサージの利用を行なっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中学生・高校生の職場体験の受け入れ。 消防署指導による、火災避難訓練の実施。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の同意の下、協力医療機関の医師の往診 を、月2回受けており、必要時には、受診できるよ うにしている。	
			(外部評価) 月に2回、事業所の協力医の往診があり、適切な医療 が受けられるよう努めている。また、利用者が希望す る医療機関等の受診が、継続してできるよう家族の協 力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回、看護師の訪問があり、報告・相談を行なっ ている。緊急時には連絡をするようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報提供書を書き、理解してもらっている。 お見舞いに行き、主治医が相談員さんに経過を伺っ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に、重度化や看取りに向けた指針を説明し、渡 している。	
			(外部評価) 緊急時における対応について、事業所の指針を家族に 説明し同意を得ている。また、職員は救命訓練を受講 したり、緊急時の対応方法等の勉強会を行っている。	利用者の多くがかなりの高齢であるため、重度化や終 末期について家族等と具体的な話し合いを行うよう望 みたい。また、職員が医学的な知識や緊急時の対応方 法を学習し利用者が安心して生活できるよう、より一 層の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設したばかりなので、すべての職員は受けていないが定期的に消防署指導による救命救急講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時を想定した避難訓練を行なったが、地震訓練は行っていない。これから定期的に行なう予定である。 (外部評価) 日勤帯を想定した避難訓練では、玄関やキッチンでの発火を設定する等、具体的な訓練に取り組んでいる。訓練後は問題点について職員間で話し合っている。災害時に備えた備品等も準備している。	職員数の少ない夜勤帯や地震等の災害を想定する等、様々な状況での訓練を継続的に取り組むよう望みたい。また、立地的に災害時に孤立する可能性もあり、地域との協力体制を検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個々の性格を理解し、その人に合った声かけを行なっている。誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけには特に気をつけている。 (外部評価) 支援が必要な場合は利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを行っている。利用者一人ひとりに合わせた丁寧な声かけをするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の業務の中で話を聞くようにし、おやつ時の飲み物等は希望を聞き、本人に選んだり決めてもらえるような声かけを行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員主体になる場合もあるが、入浴時間等希望を聞き、一人ひとりのペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時には、自分で選ぶことができる人は、自分で服を選んでいただいている。 髪のカット・パーマ等、希望を聞き予約をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備、後片付け等、できる方には手伝ってもらっている。誕生会や行事の時の献立も一緒に話し、希望されるものになっている。 (外部評価) 日々の献立や食材は法人で準備している。職員は調理や準備、片付けを無理のないように利用者で行い、役割を持ちながらいきいきと生活できるよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量・水分量を記録、チェックして摂取量を把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、全利用者に口腔ケアへの声かけ、誘導を行っている。個々の状態で、一部介助・全介助も行っている。 週2回、義歯をポリドント消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や声かけ・誘導することで、排泄の自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) 排泄は自立している利用者がほとんどである。チェック表を用い排泄パターンを把握したうえで声掛けや誘導をしており、自立した排泄が継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方は、スタッフ全員が状況が分かるよう記録し、牛乳・薬等で、個々に対応している。リハビリ体操を行ない、水分もこまめに摂取している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週に2～3回入浴できるよう支援している。好みの湯加減でゆっくりと入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望を聞き、個々にゆっくりと入浴を楽しむことができるよう、ゆとりを持った時間配分を心がけ、入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中適度な運動やお手伝い等をして、活動されている方が多いので、夜間ほとんどの方が安眠されている。部屋の温度・湿度、廊下の照明にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬の支援を行なっている。薬の説明書を綴り、種類・副作用・薬の働き・飲み方等、すぐに分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来ることを見出し、食事の後片付け・準備、洗濯物たたみ、フロアの掃除等、役割を持って生活していただいている。散歩をしたり、趣味(ぬり絵・歌・踊り・読書・習字)等もほぼ毎日行なっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くを散歩したりして、気分転換を図っている。また、家族の方の協力で外出されている利用者さんもいる。外出を企画し、車での買い物・ドライブをすることもある。	
			(外部評価) 利用者の体調や天候をみながら可能な限り散歩に出かけ、気分転換等行っている。また、買い物やドライブにも出かけ、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、自己管理をされている利用者様はいない。買い物時は、一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様が希望される場合は、電話の取次ぎをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、テレビの音量の調節や、カーテンを使用し採光の調節を行ない、冷暖房で温度の調節を行っている。毎日掃除を行ない、季節の花などを飾ったり、作品を飾ったりしている。	
			(外部評価) 共用の空間は畳の間等が設けられ、利用者が思い思いのところで過ごすことができるよう配慮されている。また、きれいに整頓され、掃除も行き届いており清潔に保たれている。季節感の感じられる作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロア内には、ソファや椅子、畳コーナー等あり、気の合った仲間と、思い思いに過ごせるような居場所がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真・位牌・人形等、それぞれが馴染みのある物を、自由に置いてもらっている。使い慣れた引き出し等を置いている方もいる。	
			(外部評価) 居室は広く、荷物等の収納も十分できる大きさが確保されている。使いなれた調度品を自由に持ち込んでもらい、利用者が馴染みのものに囲まれて、落ち着いて生活できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレ・風呂場などに手摺りがあり、安全な環境にしている。また、自室入り口には名札があり、自分の部屋が分かるようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700069
法人名	榊新風会
事業所名	グループホーム嶺南
所在地	大洲市肱川町山鳥坂241番地1
自己評価作成日	平成 23年 9月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

肱川の清流、桜や石楠花の花々に囲まれた、自然環境に恵まれた施設です。利用者が、ゆつくりと穏やかに生活を営むことができるよう、職員一人ひとりが、それぞれに目標を掲げて日々の業務に取り組んでいます。利用者の方々は、いつも明るく笑顔が絶えません。4月にスタートしたばかりで、まだ不十分なところもありますが、今後も地域の方々との交流を深めながら、より良いグループホーム作りを目指したいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は自然豊かで、四季折々の風景を楽しむことができます。玄関は自由に出入りすることができるよう常に開けられており、気軽に近隣住民は立ち寄ることができる。職員は、利用者の笑顔がふれるよう日々のケアに努めている。月に1回開催される勉強会や、外部の研修に参加する等、積極的にケアについて学んでいる。地域との関わりを大切に築いていきたいと考えており、お祭り等の行事にも積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム嶺南

(ユニット名) 北棟

記入者(管理者)
氏名 佐々木保幸

評価完了日 23年 9月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 個々の利用者にあった介護の提供という観点で、ユニットでの理念を掲げ、統一した介護につながるようフロアの見えやすい位置に掲示している。また、職員それぞれが、理念の実践につながるよう、年間の目標を設定し、日々の業務を行なっている。</p> <p>(外部評価) 理念は利用者本位のケアを目指す内容の「やさしく・ゆっくり・おだやかに」と職員の基本対応について意識した内容の「ただしく・たしかに・すみやかに」が掲げられている。理念は見えやすい場所に掲示している。</p>	今年度開設された事業所であるため、理念を全職員で共有し、具体的に利用者本位のケアが実践されるよう、今後の取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩の際に積極的に挨拶をするよう心掛けている。また近隣の方も含め、来訪者には気軽にホームの見学をしていただけるような環境作りに努めている。近隣の方の訪問はあったが、日常的な交流には至っていない。</p> <p>(外部評価) 日常的に地域住民とあいさつを交わし、地域住民も気軽に事業所を訪ねてもらえるような関係づくりを行っている。地域初の事業所としてつながりを大切に築いていきたいという思いがあり、お祭り等の行事にも積極的に参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、高齢福祉課の職員や嶺南管理者から、構成委員の方々に、認知症等についての説明を行なっている。中学生・高校生などのボランティアや実習などの受け入れを予定している。また、地域の方を招いての行事を計画している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回のペースで開催している。各月毎の行事や勉強会・研修等の報告をし、構成員の方々から色々と意見を述べていただいている。 会議の記録は、業務の向上に反映できるよう、フロアに掲示している。	
			(外部評価) 2か月に1回、利用者や家族、民生委員、公民館長、地域の小・中学校の先生、市の担当者、他事業所の職員等の参加を得て開催している。日々の取り組みを報告したり、地域からは消防訓練の協力の申し出もある。相談したり意見を交換できる場として有意義に活用されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ケアプランを提出し、報告を行なっている。 担当者の方には、運営推進会議に出席していただき、様々な相談をし、助言をしていただいている。	
			(外部評価) 市の担当者とは、日常的に報告や相談等の連絡を取り合いアドバイスを得る等、良好な協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠も含め、身体拘束はしていない。 見守り・付き添いという形を徹底することで、利用者の自由な活動を極力確保できるよう努めている。 声かけの仕方等不十分な職員も見受けられるが、勉強会等を通じて浸透するよう心掛けてゆく。	
			(外部評価) 月に1回開催される勉強会で取り上げたり、外部の研修に参加する等、積極的に拘束をしないケアについて学んでいる。また職員同志で、気になることがあれば注意し合い、よりよいケアの向上に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する資料の掲示をし、普段から職員が目にすることが出来るよう配慮している。研修への参加をしている。勉強会でも取り上げて行なっている。言葉がけについては、不十分な職員もあり、今後はお互いが注意し合えるように気を付けたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修に参加できる形をとっている。ケアワーカー室内に資料が置いてあり、職員が閲覧出来るようにしている。機会を設けて勉強会を行ないたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に管理者が、契約内容や重要項目について細かい説明を行ない、家族の方に充分理解していただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、電話連絡時等に家族の意見を聞くようにしている。要望・意見について職員相互に連絡を取り、管理者への報告も行なっている。また、意見箱を設置し、家族や来訪者が意見を述べやすい体制をとっている。 (外部評価) 面会の時に話を家族から聞いたり、日頃の様子を電話連絡する機会を設け、積極的に意見や要望を聞き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見や問題点があれば、必要時には管理者・代表者への報告・上申を行なっている。月1回業務カンファレンスを実施している。 (外部評価) 職員は、他の職員や管理者に気軽に意見や希望を言うことができる等、良好な関係が構築されている。出された意見は実現に向けて取り組むようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者がフロアの状況を見る機会が多く、職員の意見等も良く反映できる形ができています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者が来所する機会が多く、各職員の就業状況や介護技術のレベル等を良く把握できる状態になっている。各研修への参加が積極的に行なえる環境になっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に入り、運営推進会議等において、他の施設・事業所の同業者との交流・意見交換を行なっている。各職員は、時に他施設への訪問等も行なっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の調査や施設見学等の機会に、聴き取りを行なっている。また、入所当初には良く本にと話す機会を設け、希望や不安点等を聴き取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人同様家族の方からも良く話を聞いている。管理者は契約時に、細かい意見や、利用者についての情報収集に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず入所当初に必要な介護計画を立案し、概ね二週間の期間で本人に合ったサービス内容を見極めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 年長者であることを念頭に、自然に尊重した接し方ができる心構えが持てるよう、相手の立場に立った行動ができるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者本人の事柄、施設運営に関する事等、家族の意見は積極的に参考にするよう心掛けている。安心して外出・外泊ができるよう協力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元のお祭り等を見学し、知人の方との交流が持てるよう支援している。定期的買い物行事等を行ない、馴染みの場所を目にすることが出来るようにしている。 (外部評価) 馴染みの美容院を利用したり、お墓参りをする等、今まで大切にしてきた人や場所との関係を継続することができるよう、利用者一人ひとりの生活習慣等を把握し家族の協力を得ながら支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日、集団での体操やレクリエーション等を行ない、利用者同士が関わりあえるよう援助している。また、職員が間に入り、友好的な関係が保てるよう、手助けをしている。座席の配置にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院退所された方が1名居る。前施設からの付き合いがあり、時々お見舞いをしている。家族から要望があれば情報提供に協力したい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメント、日常の行動や会話の中から本人の希望を汲み取り活かしているが、入浴時間や排泄パターン等、まだまだ介護者本位の場面がみられる。利用者本位は介護の基本であるので、今後もミーティングを重ね徹底していきたい。 (外部評価) 日常の会話等から思いや意向を把握するよう努めている。また、意思表示が困難な利用者については、表情等の変化や小さなサインを見逃さないよう心がけている。毎月のカンファレンスで職員間で情報を共有し意見交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の記憶に強く残っているものは、日頃の会話の中から拾うことができ、出来る限り職員間で共有出来るようカンファレンス等で話し合っている。 入所時の本人・家族からの聴き取り、また事前調査の段階では、担当者が実家を訪問する等している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 理念に基づき、利用者個々の状態の把握に努めている。色々なことをやってみていただいて、それぞれに意外な能力が発見できる場合がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、ケアカンファレンスにおいて各利用者のモニタリングを行ない、介護計画に反映している。評価結果は、それぞれ家族に通知し、意見を求めている。	
			(外部評価) 利用者や家族から意見や要望を聞き取り、介護計画に反映するようにしている。また、介護記録の様式を工夫し、常に介護計画の目標やサービスの内容を意識付けることができるようにしている。また、モニタリングも定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別には、介護記録、経過観察記録、業務日誌等があり介護計画に沿って毎日の状態を記録している。また、申し送りノート等の活用も行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物の代行、療養マッサージの利用、移動パン屋での購入、ボランティア団体によるレクリエーション等々を行なっている。今後も様々なニーズに対応していきたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地元の夏祭りの見学を行ない、餅まき行事に参加した。具体計画には至っていないが、今後、裏の畑スペースを活用し、利用者・職員が一緒になって園芸作業ができればと思っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医による月2回の往診を行ない、利用者の健康管理 に努めている。必要時には、家族に協力していただ いて他科受診をしている。皮膚科の往診も行った。 (外部評価) 月に2回、事業所の協力医の往診があり、適切な医療 が受けられるよう努めている。また、利用者が希望す る医療機関等の受診が、継続してできるよう家族の協 力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回、看護師の訪問があり、医療連携体制をとって いる。日頃は、施設内看護師のもと、利用者の体調の 変化に注意し、変調時には速やかに主治医に連絡する ようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 往診、医療連携等で、日頃から連絡を密にできる体制 を取っている。入院時があれば、経過報告等こまめに 行ない、情報交換をしてゆく。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所契約時に、管理者により重度化・看取り介護につ いての説明を行ない、書面にて指針を示し、同意を得 る形を取っている。家族の意向に変化があれば、その 都度変更できるようになっている。 (外部評価) 緊急時における対応について、事業所の指針を家族に 説明し同意を得ている。また、職員は救命訓練を受講 したり、緊急時の対応方法等の勉強会を行っている。	利用者の多くがかなりの高齢であるため、重度化や終 末期について家族等と具体的な話し合いを行うよう望 みたい。また、職員が医学的な知識や緊急時の対応方 法を学習し利用者が安心して生活できるよう、より一 層の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回定期的に救命救急講習を受けている。現時点では未受講者もいる。 急変時対応の経験者は少なく、今後は、勉強会等も必要と感じている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 開設後、総合避難訓練を1回行なっている。 年2回の訓練を予定している。 地域との協力体制をしっかりとっていくことが、今後の課題である。 (外部評価) 日勤帯を想定した避難訓練では、玄関やキッチンでの発火を設定する等、具体的な訓練に取り組んでいる。訓練後は問題点について職員間で話し合っている。災害時に備えた備品等も準備している。	職員数の少ない夜勤帯や地震等の災害を想定する等、様々な状況での訓練を継続的に取り組むよう望みたい。また、立地的に災害時に孤立する可能性もあり、地域との協力体制を検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の人格の尊重を基本において介護業務に臨んでいるが、声の強弱や微妙なニュアンス等、言葉がけの点においてまだ不十分なところがあり、全職員に徹底していきたい。 (外部評価) 支援が必要な場合は利用者の気持ちを大切に、さりげないケアを行っている。利用者一人ひとりに合わせた丁寧な声かけをするよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人のちょっとしたつぶやき等から察して、例えば就寝前に入浴していただく等の工夫はしている。飲み物や、誕生会の献立、レクリエーションの内容等も、よく希望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日課的な意味では、職員主体になりがちな部分もあるが口腔ケアのタイミング、散歩や昼寝の時間等、利用者の希望に沿って援助できるよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時、入浴時等に、可能な利用者については本人に服を選んでいただいたりしている。選べない方については季節感、本人らしさが出るように職員が工夫している。家族の協力で、外出し馴染みの美容室で散髪していただいている方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生会等の行事の際には、本人から希望をとり、好みに合わせた献立を提供している。刻み食や、ミキサー食によって安心して食事できるような工夫もしている。職員と一緒に食事することで、コミュニケーションを取っている。準備や片づけも一緒に行なっている。 (外部評価) 日々の献立や食材は法人で準備している。職員は調理や準備、片付けを無理のないように利用者で行い、役割を持ちながらいきいきと生活できるよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食時の食事量のチェック、10時・おやつ時を合わせたトータルの水分量のチェック・記録をし観察をしている。お茶をあまり飲まれない習慣の方については、その他の飲み物を提供したりしている。糖分・塩分を控えるように注意も払っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず全員に口腔ケアの声かけを行なっている。介助が必要な方は介助し、自分でできる方についても、確認をしている。義歯の方は、週2回のポリドント消毒を行なっている。歯ブラシやコップの消毒もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個人個人に合わせた声かけ・誘導・介助を行ない、排泄の失敗を減らすよう援助している。昼間にトイレでできる方は夜間もトイレで排泄できている。失敗のある方も少しずつトイレで排泄できる頻度が増えてきている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄は自立している利用者がほとんどである。チェック表を用い排泄パターンを把握したうえで声掛けや誘導をしており、自立した排泄が継続できるように支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>業務日誌に記入し、便秘の方が分かるようにしている。慢性気味の方については、医師と相談の上、内服でのコントロールを行なっている。十分な水分摂取を心がけ、また適度な運動ができるよう援助している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>時間帯については昼間の入浴になってしまうが、曜日は決めず毎日4～6人が入浴できる体制で行なっている。見守り程度で入浴可能な方については、夜間入浴も試みている。入浴中は、本人のペースに合わせてゆっくりと入っていただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者一人ひとりの希望を聞き、個々にゆっくりと入浴を楽しむことができるよう、ゆとりを持った時間配分を心がけ、入浴支援が行われている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>殆どの方は日中フロアで過ごされているが、昼食後等、自室で休みたい場合には、希望に合わせて休憩時間をとっている。就寝時、介助の必要な方については、睡眠時間等を考慮して、適切な時間に居室へ誘導し、休んでいただくようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服の管理については、間違いのないよう、担当職員が行なっている。薬の作用や副作用等、個人毎の一覧表にして、各職員が理解しやすいようにしている。症状の変化等みられた場合には、主治医に連絡し、内服の検討等を相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、日めくりカレンダーを捲る等、個人の能力を活かせるような役割の提供をしている。集団でのレクリエーションにおいても、塗り絵・貼り絵・習字紙玉分け・カラオケ・輪投げ・ボール等、それぞれが個性を發揮できるよう様々な種類のものを提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 特に朝の時間には散歩の希望がよくあり、可能な限りは職員が付き添いして屋外を歩き、新鮮な空気が味わえるよう支援している。家族の面会時には、外出の依頼等も行なっている。買い物やドライブの形で、最低月1回は外出できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の体調や天候をみながら可能な限り散歩に出かけ、気分転換等行っている。また、買い物やドライブにも出かけ、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時に、自分で支払える能力があると思われる方については、職員見守りの上で試みたりしているが、不穩につながる場合もあるので、注意を払っている。日常的には、施設内でのお金の所持は行っていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族から電話があった場合には、取次ぎをして話をしていただくようにしている。電話機は、利用者が話のしやすい位置に設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアは常に清潔感が保てるよう、清掃・整頓には気を配っている。食べこぼし等の汚れは速やかに取り除くよう心掛けている。エアコンには、効きすぎて利用者に不快感を与えたり体調不良を起こしたりしないように簡易の遮断布を取り付けている。時折、窓際に季節の花などを飾ったりしている。 (外部評価) 共用の空間は畳の間等が設けられ、利用者が思い思いのところで過ごすことができるよう配慮されている。また、きれいに整頓され、掃除も行き届いており清潔に保たれている。季節感の感じられる作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 集団での体操やレクリエーション時以外の時間は、それぞれが自席で話をされたり、畳コーナーで寛いだりされている。窓際で外を眺めるのが好きな方もおり、付き添いして見守りを行なうようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 持ち物の制限はしておらず、テレビや、椅子、書籍類、写真や電気毛布等、身のまわりのものを使ってもらえる方もいる。 畳を使用して、安心して就寝されている方もいる。 (外部評価) 居室は広く、荷物等の収納も十分できる大きさが確保されている。使いなれた調度品を自由に持ち込んでもらい、利用者が馴染みのものに囲まれて、落ち着いて生活できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・浴室・廊下には手すりがあり、杖歩行者や手引が必要な方が安全に歩行することができるように、また、歩行の練習にもなるように活用している。洗面台は居室のものとフロアのものを使い分ける等の工夫をしている。	